

2021 年度 「共同研究事業」 活動報告書
すべての子ども達が「分かる」「できる」授業づくり
～「多様な性・生き方」の学びから自他尊重の関わりを築く～

和歌山大学教育学部附属特別支援学校 鶴岡尚子 海南高等学校定時制 土井一真
和歌山大学教育学部 本村めぐみ（研究代表者）

1. 本研究のねらい

本研究は「ダイバーシティ&インクルージョン教育」の理念に基づき、近年、可視化されるようになってきた「多様な性・多様な生き方」の学びの重要性の認識から様々な特性や個別性をもつ、すべての子ども達にどのようにすればその学びを届けることが可能であるかを、個々の現場の教育実践を通じて模索することをねらいとした。

今年度は特に軽度発達障害を持つ和歌山大学附属支援学校の中学部の生徒たちと、海南高等学校定時制に通う高校生らを教育実践の対象に位置付けた。彼らの共通点としては、中学校や高校以後に進学をめざす子どもたちに比して学校における「学びの期間」が相対的にとても短いという点である。そうした中で後回しにされてしまいがちな「多様な性・生き方」を学ぶという機会は、彼らにこそ効率的かつ体系的な教育カリキュラムが整備され、その学習権が保障されてしかるべきである。

発達に障がいを持っている、高校卒業後はすぐに社会参画が求められる生徒たちにも、自身の未来を見据え他者との共助的な関わりを伴った自律的な生活設計が必要である。この研究ではすべての生徒が「多様な性・生き方」を「理解できる（実践できる）」ことを基盤に、自身の様々な生き方の可能性に向けた自己洞察に繋げ「自他尊重の関係性を築き得る（できる）」ことを目指した授業案づくりをめざすこと、とした。

2. 本研究の特色

本研究を実施するにあたり一つの戦略を打ちだした。それは、本研究を進めるにあたり、複数の「多様な性」を生きる当事者たち（民間で講師活動をおこなう専門家や、SOGIEの中でもマイノリティ自認にある20～40歳代の人々）を研究会に招き、ジェンダー・異性愛者を自認するマジョリティ集団のみでは考え及ばないリアリティのある教育実践における様々な示唆を獲得し続けたことである。本研究チーム自体が異質な他者同士の相互作用を生み多様なメンバーシップを得たことにより、現場で対峙する子ども達（なかにはSOGIEのなかでもマイノリティ性を秘めている子ども達）の個別性にきめ細やかに配慮をするとは具体的にどのようなことか、さらに授業実践において教師が発する一つ一つの発話にまで至るまで、きわめて多角的な視座による議論を可能とした。

3. 次年度に向けて

本年度は2021年8月～2022年1月にかけてオンライン研究会を含み全5回の実施を行った。そこではより普遍的にデザインされた「誰もが分かる・できる」授業づくりの対象として幼児教育や保護者教育を含む展開軸も得られたが、まずは今年度に抽出された各課

題をクリアすることを目指して次年度への事業へと引き継いでいきたい。以下は、特別支援学級における鶴岡尚子氏が関わった中学部における実践と、海南高等学校定時制において土井一真氏が学校内「人権教育」の一環として手掛けた教育実践内容の要約である。

【実践1】中学部の縦割り集団を活用した「性の多様性」の授業実践（鶴岡）

1 目的

本授業の対象グループの生徒たち8名（1年生3名、2年生3名、3年生2名）は、全員が地域の小学校から特別支援学校の中学部へ入学してきた生徒たちである。そして、全員が知的障害の程度は概ね軽度の範囲内ではあるものの、理解したり表現したりする力や、生活経験の違いにより、多様な実態が見られる。そういった生徒たちが、人の性別や好きになる性は、女性か男性という二つの枠組みではなく、多様であることを知り、自分との違いに直面した時に、どのようにふるまうか、自分なりの意見をもてるようになることをねらいとした、2時間の授業を行った。

2 方法

授業は動画で記録した。授業後に、ワークシートの記述内容、グループワークや全体での話し合いでの発言内容の分析を行った。加えて、授業の事前、事後に個別に生徒へのインタビューを行い、考えの変容をみることで、授業のねらいが達成されたのかを分析した。分析に当たっては、校内のセクシュアリティ教育研究グループで行い、全員の一致が確認できるまで協議した。

3 授業の概要

（授業1）

セクシュアルマイノリティであることを公言しており、生徒の認知度も高いと思われる芸能人（教材中ではA君とした。）の物語を取り上げて、その人物の幼少期、小学校時代、中学校時代の3つの場面のエピソードと自作したイラストと共に提示し、最後に現在の写真を提示するパワーポイント教材を作成した。一つのエピソードを伝えたのちに、自分の考えを書いたワークシートを見ながら、4人ずつのグループ内で共有した。そこで出た意見をサブティーチャーがホワイトボードに書き、その後、全体で共有した。

（授業2）

授業1では、A君という人物のセクシュアリティしか取り上げなかった。その他にも多様なセクシュアリティがあるということを知るための教材を探した。その結果、北九州市制作「モマルくんと考えよう」という人権啓発動画と、認定NPO法人ReBitが作成した「【中学校版】多様な性ってなんだろう？」を視聴することにした。

動画の一場面を提示し、「もし、あなただったら、どのように声をかけるか」を考え、ワークシートに記入したのちに、前回と同じグループ内で共有した。そしてグループで出た意見をホワイトボード上に提示し、全体で共有した。最後に、多様なセクシュアリティの当事者が登場する動画を視聴した。

4 結果

授業1では、同性愛について「聞いたことがない」、「本当に（同性愛が）あるのか迷ってる」という声が上がった。また、最後にA君のモデルとなった実際の芸能人の写真を提

示した際には、「やっぱり芸能人やったんやな。」「(性的マイノリティの人は)日本のどこかにいる。和歌山でも探したらどっかにいる。」といった発言があった。その様子から、多様なセクシュアリティを持つ人の存在は身近な存在としては未だ捉えられていないことが明らかとなった。これにより、いかに自分の身近なものと捉えられるようにするかを次時の課題と捉えた。

授業2では、トランスジェンダーの友だちに本当の気持ちを打ち明けられたら、「もし、あなただったら、どのように声をかけるか」についてワークシートに記入する際には、一人では書くことが難しそうな生徒が多かった。しかし、サブティーチャーが一人ずつ声を掛け、思いを聞き取り、それを書くように促すことで全員が記入することができた。「へんじゃないよ」、「別にいいの、気にしないの」、というような、動画の登場人物の告白を受け止める言葉ばかりで、告白されたことや、内容に否定的なことを書く生徒はいなかった。

また、インタビューの結果を以下に述べる。

授業前から、「女っぽいものが好きな男の子」に関しては、「いいと思う」というような、肯定的な考えがほとんどであった。そのような中で、ある生徒は、「分からない」、「へん」といった考えであったが、授業後には、「(へんとは) 思わん。」と答えた。そのように考えが変わった理由は、トランスジェンダーとして動画に描かれるような当事者がいるという事実、ただ「知らなかった」からであったと推測された。

また、同性愛については、授業前には「聞いたことない。へん。気持ち悪い。」と否定的な気持ちを答えていた別の生徒が、授業後には、「女性同士はへんじゃないけど、男性同士は、ちょっとへん」というように、部分的に肯定するような気持ちを伝えた。授業前に肯定的な考えを示していた他の生徒たちも、「外国ではある。テレビで見た。」という、身近なものとしては考えられない様子であった。しかし授業後は、「動画を見て、(同性愛者が) おるんやって分かった。」と、実在することがはっきり認識できたと言える。

5 考察と課題

作成した教材や動画を用いて、性的マイノリティ者の存在を知らせたことで、子どもたちはその現実を身近に捉えられるようになり、マイノリティの人を肯定できるような考えへと変化を促すことができた。自分の価値観と違う人に対して、「へん(自分の認識とは異なる)」と発言する生徒は、多様なセクシュアリティについての知識がないために、そのような発言をしていたのであり、そういった発言をする他の生徒に関しても、多様な性について「まずは知識を得る」学びにより、差別的な発言は減じられると考えられた。

また、同性愛については、肯定的な考えを示しつつも、どこか遠くの話のようで、身近なものとしては考えられない様子であった。しかし授業後は、動画を見たことでその存在をはっきり認識するようになっていた。しかし、性的マイノリティの人が、この学校の中や、クラスの中にいることまでは、想定できない生徒がほとんどであったため、今後の工夫が必要な課題である。そして、この授業を受けた生徒たちが高等部を卒業するまでに、現時点では自分でも気付いていないセクシュアリティの一面に気付いたり、個人が集団の雰囲気をもどのように捉えるかに変化が見られたりする可能性もあり、長期的な視点で生徒たちの変化を追うことも課題である。

【実践2 海南高等学校校定時制における「人権の学び」を通して（土井）】

1. 目的

目的として「SOGIE の考え方と多様な性を生きる人の存在を知る」「自分だけの普通を考え、それを大切にできるきっかけを見つける」の2つを設定した。他人に優しく接することができる生徒たちが、自分のことも大切にできるようにしてほしいためである。

2. 方法

45分講義形式の授業を実施した。①SOGIEの説明、②4名の著名人のSOGIEを紹介、③「性のあり方シート」の配布・説明（資料1）④動画の視聴の順に授業を展開した。

①においては、具体的に「男性が好き」「男女の区別はない」などの言葉を用いて、セクシュアリティが多様であり、人によって程度が異なることなどを学ぶとともに、専門用語の数を減らすことを意識した。

②では、セクシュアルマイノリティを公表している著名人を紹介したが、アセクシュアル、ノンバイナリーという聞きなれない特性についても紹介した。LGBTだけではないセクシュアリティの存在を知ってもらうためである。このタイミングで様々な人が存在することを強調すると同時に、まずは存在を知った上で互いに傷つけあわないよい距離間を持つことも一つの関わり合い方であり、他者理解とは100%すべてを受け入れることを意味するわけではないことも、合わせて伝えることとした。③では記入例も併せて記載した。

「ゲイでビジネス女装家」の著名人、指導者の「ゲイ」の友人のことを表し、書き方だけでなく身近な存在として知るきっかけとなることを意識した。

④ではPanasonicの「Your Normal プロジェクト」の紹介ムービーである「Think Your Normal」を視聴した。世間ではマイノリティ側でも、偏見の目などを気にせずに堂々と、そしていきいきと活躍している存在を見ることで、自分らしさを大切にできるきっかけになることを期待した。

3. 結果

①授業に満足したか、②役に立つ学びだったか、③理解できたかの3項目を4段階の選択式で記入させたところ、②③は全員から良い評価を得ることができた。①において「少し不満」と答えた生徒がいたが、「過去にセクシュアルマイノリティの人と少しトラブルがあり、あまりいい思い出がないから」という意見からであった。また、自由記述には時間の都合もあり短いコメントが多かったが、その中で「動画の人たちが幸せそうでよかった」という意見があり、それは先述の「少し不満と答えた生徒」が答えたものであった。

4. 考察・課題

本授業実践では、LGBTなどの専門用語をできるだけ避け、「自分の言葉で表す」ことのできるSOGIEの概念を用いたことが、全体の役立ち度・理解度の高さにつながったと思われる。目標到達としては、「多様な性の存在を知る」ことまでは達成できたといえるだろう。自己洞察・自他尊重については、本授業の一面だけでは評価が難しいと感じられた。

生徒たちの感想文では「普通って難しい」という意見があり、「普通とは何だろう？」と固定的概念を揺さぶるきっかけ作りとして本授業が機能した可能性は考えられる。

引き続き次年度以降についても「分かる・できる」授業づくりの一環を担いつつ、その評価方法についても検討をしていきたい。

性のあり方シート

①自分の性別は何だと思う？



ない・わからない・決めていない・時による

補足・メモ

②周りからはどんな性別として扱われたい？

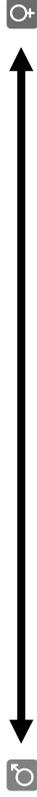


ない・わからない・決めていない・時による

補足・メモ

③どんな格好が自分らしいと思う？

④恋愛的に好きになる（ときどきする、一緒に過ごしたいと感じる）相手は？



ない・わからない・決めていない・時による

補足・メモ

⑤性的に好きになる（セックスやキスなどをしたいと感じる）相手は？



ない・わからない・決めていない・時による

補足・メモ

⑥どんなとき、相手のどんなところに惹かれる？

⑦あなたにとって〇〇は？一言で表してみてください！

愛

性欲

恋

友情

参考出典：パレットトーク，“性のあり方シート”，マンガがわかる LGBTQ+，講談社，2021，p. 28-31